

GT.M Ver5.3 2009

澤田 潔 (CAMTA-JP)

はじめに

GT.M (Graystone Tecnorogy MUMPS) は、Afferro GNU General Public License version 3 (AGPL3) のオープンソースソフトウェア (OSS) である。ANSI/ISO/JIS 国際標準の M 言語であり ACID トランザクションをフルサポートしているハイパフォーマンスのデータベースエンジンである。筆者は MTA2003 長崎大会にて英語版 GT.M Ver4 を簡単に紹介した。今回、大幅に機能拡張および国際文字サポートが行われた GT.M Ver5.3 について紹介する。

GT.M の歴史

GT.M は 1980 年 Graystone Technology 社が商用システムとして開発をはじめた。1998 年に Sanchez Computer 社が買収し GPL の OSS として発表した。2008 年 Fidelity National Information Services (F. I. S) の Healthcare 部門が買収しプロジェクトリーダーディング会社となっている。主管プロジェクトマネージャーは、K. S. Bhaskar 氏である。2001 年に発表された Ver4.2 以降、毎年のように頻繁にメジャーバージョンアップされている。

GT.M Ver5.3 概要

GT.M Ver5.3-000 は、2007 年 10 月にリリースされ最新版は 2009 年 8 月の V5.3-004A-Ver. 1.11 である。以下に特筆すべき V5.3 の改善・改良点をあげる。

- 64bit プラットフォーム対応
- 64bit トランザクション ID
- Unicode 対応
- トランザクション制御の改良
- データベースの暗号化
- DB-Block サイズが 128M から 224M ブロックへ拡張。最大 1.7 テラバイトの DB サイズが利用できる (Linux 版)

PIP テクノロジー (SQL 接続 I/F)

2007 年 1 月 F. I. S 社は、GT.M 上で動作可能な SQL-I/F Architecture (PIP) を発表した。クライアントからは JDBC で接続する。発展改良段階のソリューションであるが今後注目したい。

日本における GT.M コミュニティ活動

筆者は CAMTA-JP と GT.M 研究会 (Google Group) で GT.M およびその周辺技術についてコミュニティ活動を行っている。英文ドキュメント翻訳や、ベンチマークや実装実験など協力者を募集している。

参考文献

1. GT.M Database Engine with Extreme Scalability and Robustness.
<http://www.fidelityinfoservices.com/FNFIS/Markets/NonFinancialIndustries/Healthcare/GTM/>
2. Cache'& M テクノロジー Japan (CAMTA-JP)
<http://camta-jp.dyndns.org/>